

## イグアス移住地概要（アルトパラナ県）



イグアス移住地は、イグアスの滝への観光拠点にもなっているブラジルとの国境の町、エステ市から首都であるアスンシオン方向に約 41km 地点に位置しています。

イグアス移住地の総面積は約 87000 ヘクタールであり、基幹作物は大豆で冬作には小麦やトウモロコシ、燕麦なども導入されたり、牧畜との複合体系の導入が図られたりと、地力を保ち、より環境保全を考えた持続的農業への取り組みが進められています。他にも、畑作だけに頼った営農形態からより多様で安定した形態の確立のため、1991 年に発足した日系全パマカダミアナッツ研究協議会を中心に、永年作物としてマカダミアナッツの導入も視野に入れていきます。

### イグアス日本人会



イグアスでは日系移住者及びその子弟により日本人会が組織されています。その日本人会では日本人会事務局に加え、イグアス日本語学校、日本語高校、各種グラウンド、診療所、薬局（診療所内）、ピクポ公園、採石所、霊園、文化交流センター、職員宿舎などの施設を運営管理

しています。

### 社団法人イグアス日本人会

住所：Distrito de Yguazu km 41, Dpto. Alto Parana, Paraguay

電話：(+595 632) 20243

E-mail: nikkaiygy@hotmail.com

## イグアス診療所・薬局



イグアス日本人移住地にある診療所は1961年に設立され、日本語での対応が可能な日系人医師を中心に現地の医師が勤務しています。診療科は内科、外科、小児科、整形外科、婦人科、歯科、皮膚科があり、入院室も有しています。

## イグアス日本語学校



日本語による正しい会話及び読み書きができ、日本語による教育を通じて日本の文化、習慣を身に着け、日系パラグアイ人としての自覚を持つ人材を育てるため、1961年にイグアス日本語学校が設立されました。現在（2022年12月）、日系、ハーフ及び非日系を含め、幼稚園、小学校、中学校、高等部の全体で141名の生徒が日本語を学んでいます。家庭で日本語を使用する日系、ハーフの生徒向けのコースに加え、非日系子弟のための日本語「ラパーチョコース」を開き、日本語の普及と経営安定に努めています。なお、日本語学校の主な年間行事として、運動会、子供の日、校内検定試験、バザー、学習発表会などが行われています。

また、優秀な本校卒業生を教育実習生として採用し、バイリンガル教師の後継者育成を図っています。

## イグアス農業協同組合



イグアス移住地の日系人の主な事業は大型機械農業による大豆及び小麦栽培です。特に、イグアス移住地は、大豆の生産地として、パラグアイでの不耕起栽培発祥の地として名を知られています。1998年11月には、製粉工場が稼働開始し、そこからでるフスマを利用して家畜用の配合飼料も生産しています。

一方で、イグアス農協では、様々な形で積極的に地域への協力及び問題解決に取り組んでおり、1995年には「イグアス地域復興協会」を設立し、地域発展を目的とした小農支援事業を行っています。



## イグアス農業協同組合スーパーマーケット

イグアス農業協同組合が経営するスーパーマーケットでは、定員の一部は日系人であり、日本食品（お米、日本のインスタント食品、日系人の方々の手作りの漬物類、現地の醤油などの調味料、お酒など）や外国から取り寄せた魚介類なども販売されています。（パラグアイは内陸国であるため、海の魚介類は全て外国から輸入されたものです。）

## 行き方

国道7号線：アスンシオン市のバスターミナルからエステ市行きの長距離バスで約5時間、イグアス移住地41km地点で降りる。

国道6号線：エンカルナシオン市からイグアス移住地へ行く場合は、エンカルナシオン市のバスターミナルからエステ市行きのバスに乗りエステ市まで行き、アスンシオン行きのバスに乗り換え、イグアス移住地41kmで降りる。